

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 36 次のうち、精神保健福祉に関する法律と関連する事項の組合せとして、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 精神病患者監護法 —— 都道府県立精神病院の設置
- 2 精神病院法 —— 私宅監置の廃止
- 3 精神衛生法 —— 任意入院の創設
- 4 精神保健法 —— 精神医療審査会の設置
- 5 「精神保健福祉法」 —— 精神障害者保健福祉手帳制度の創設

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 37 地域活動支援センターで実習中の学生のMさんは、多くの利用者と接し、困っていることなどを話してもらえるような言葉がけを考えた。Mさんは、「私は、何事にも消極的で、優柔不断なところがあります。あなたはどうか。また、生活の中で、うまくできないことは何ですか」と一人一人に聞いて回った。

その日の振り返りで、Mさんは、実習指導者である所長から次のような指摘を受けた。「積極的に利用者に話しかける姿勢は評価できます。しかし、障害や障害のある人をどのように捉えるかという点で、あの言葉がけはどうでしょうか。一度考えてみてください」

次のうち、所長がMさんに考えてもらいたかった精神障害者支援の理念や方法として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 インフォームドコンセント
- 2 スtrenグスモデル
- 3 レジリエンス(resilience)
- 4 ソーシャルインクルージョン
- 5 アドボカシー

問題 38 Aさん(28歳, 男性)は, 統合失調症により母親の同意の下にW精神科病院に医療保護入院している。最近, 幻聴や妄想などの陽性症状が消退しつつある。昨日, Aさんが出席した退院支援委員会が開かれ, Aさんは3か月後の退院に向けて入院を継続することになった。ところが今日になって, AさんはB退院後生活環境相談員(精神保健福祉士)に, 「母親からもまだ退院は早いと言われているけど, やはり本当はすぐに退院したい。昨日は, なかなか言い出せなかった」と訴えてきた。

次の記述のうち, B退院後生活環境相談員のAさんへの対応として, 適切なものを2つ選びなさい。

- 1 Aさんの考えを委員会のメンバーに伝えることができることを説明する。
- 2 主治医に代わって病状を詳しく説明する。
- 3 自分で退院について母親を説得するように説明する。
- 4 委員会の決定どおり3か月退院を待つように説明する。
- 5 退院請求の制度について再度説明する。

問題 39 精神科リハビリテーションに関する次の記述のうち, 適切なものを2つ選びなさい。

- 1 専門職の介入を最大限に行って生活能力の改善を図る。
- 2 能力の向上だけでなく, 自信を取り戻すことを助ける。
- 3 障害があっても, その人らしい生き方の実現を目指す。
- 4 医学的リハビリテーションを経て, 他のアプローチを行う。
- 5 どのような環境にも適応できるように本人の技能を開発する。

問題 40 X障害者就業・生活支援センターのC就業支援担当者(精神保健福祉士)は、Dさん(23歳, 男性)から相談を受けた。Dさんは18歳で統合失調症の診断を受け、1年前から週3日デイケアに通所している。車が好きで自動車整備士になるのが夢だったDさんは、最近、「自動車整備士は難しくても、せめてガソリンスタンドで働いてみたい」と強く思うようになったという。主治医に相談すると、「働くための支援が受けられれば考えてもよいのではないか」と言われ、デイケアのスタッフからは就労継続支援事業所の利用を勧められた。Dさんは、「就労継続支援事業所の作業は車と関係ないのでやる気が起きない。ガソリンスタンドのアルバイトに応募しようと思うが、いざとなると自信がない。でも、やっぱり僕は働きたい」と訴えた。

この時のC就業支援担当者の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 アルバイトの前に、就労継続支援事業所の利用を勧めた。
- 2 ガソリンスタンドは難しい仕事なので、他の仕事を探すよう助言した。
- 3 自分でガソリンスタンドのアルバイトを見つけるよう促した。
- 4 体験実習ができるガソリンスタンドを紹介した。
- 5 デイケアに毎日通所できた時点で、援助を開始すると伝えた。

問題 41 精神科リハビリテーションの評価と計画策定に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 長期目標は、具体的で現実的なものを選別して設定する。
- 2 計画には、障害の理解に向けた周囲への働きかけも含まれる。
- 3 資源評価には、本人の問題解決技能の評価も盛り込む。
- 4 機能評価は、本人ができていないことに焦点化する。
- 5 計画の目標は、日常生活動作(ADL)の改善におく。

問題 42 次の記述のうち、相談支援事業所における精神保健福祉士が行うアセスメントとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 支援契約を結ぶ。
- 2 利用できるサービスを計画する。
- 3 働く場所探しに同行する。
- 4 サービス提供後の経過を観察する。
- 5 住む場所の希望を聞く。

問題 43 入職して3年目のE精神保健福祉士は、長期入院患者が多い精神療養病棟に最近異動となった。新たに担当することになったFさん(51歳、男性)は、入院して10年が経過しており、生活能力は低下しているが病状は比較的安定している。Fさんが長期入院となったのは、母親の病気の治療などで、退院の受け入れ条件が整わなかったからである。早速、E精神保健福祉士がFさんと面接すると、退院には消極的であった。両親とも面接したところ、年金暮らしで楽ではないが、いつでも自宅に迎え入れたいとのことであった。

この時点でのE精神保健福祉士の援助として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 退院に向けて、家族と日程調整に入った。
- 2 生活保護の申請について主治医に指導を求めた。
- 3 Fさんと両親と一緒に心理教育を受けることを提案した。
- 4 週に2、3回は病棟を訪問し、Fさんと面接することにした。
- 5 Fさんの病室を居心地の良い空間に変えた。

問題 44 Gさんは、病状が不安定であったために精神科病院に長期入院となっていたが、最近は落ち着いている状態が続いている。Gさんの両親は既に他界し、唯一の親族である妹は遠方に住んでいる。

地域移行支援の依頼をGさんから受けた、N市の指定一般相談支援事業所に勤務する新人H精神保健福祉士は、Gさんの地域移行支援計画を立てるために助言を受けけることにした。

H精神保健福祉士が受けた次の助言のうち、コンサルテーションとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 N市保健センターの保健師から、精神障害者の訪問看護の利用の可能性を聞いた。
- 2 Gさんの支援を共に行うピアサポーターから、過去の事例について聞いた。
- 3 上司である事業所管理者から、自分の役割と責任について聞いた。
- 4 経験豊富な精神保健福祉士から、地域移行の実践の報告を聞いた。
- 5 Gさんの妹から、支援への協力を得られるか聞いた。

問題 45 次のうち、相談援助機関とそこに配置されている専門職の組合せとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉センター ————— 障害者職業カウンセラー
- 2 地域生活定着支援センター —— 社会復帰調整官
- 3 基幹相談支援センター ————— 相談支援専門員
- 4 地域障害者職業センター ————— 精神保健福祉相談員
- 5 ひきこもり地域支援センター —— 精神障害者雇用トータルサポーター

問題 46 精神保健福祉ボランティアの主な役割に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 相談支援専門員の指導を受けて、訪問による相談援助活動を担う。
- 2 市民に精神障害についての正しい情報を知らせる。
- 3 精神障害者の地域における交流の機会を増やす。
- 4 学んだ知識を活用して、精神障害者の職場を開拓する。
- 5 地方公共団体の専門職不足を補う。

問題 47 ノーマライゼーションに立脚した精神保健福祉士の支援に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 一人暮らしを希望する精神障害者の服薬アドヒアランスを高めるために、心理教育の受講を促した。
- 2 高齢者が内科疾患で入院していた際に物忘れが始まったので、精神科病院への転院の手続きを行った。
- 3 家族と同居している精神障害者がグループホームで生活できるように、生活訓練を受けてみるよう伝えた。
- 4 精神障害者が認知の歪みを改善し適応的な行動がとれるように、認知行動療法を受けるよう勧めた。
- 5 発達障害者の聴覚過敏の対処のために耳栓を使用できるように、職場の了解を得た。

問題 48 社会資源に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 インフォーマルよりフォーマルな社会資源を優先する。
- 2 物的より人的な社会資源を重視する。
- 3 精神保健福祉士自身を社会資源として利用する。
- 4 利用者自身が持つ能力や意欲を社会資源として活用する。
- 5 精神保健福祉士が決定した社会資源を使用する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。

[事 例]

P市の保健福祉センターに勤務するJ精神保健福祉相談員(精神保健福祉士)の下に、Kさん(18歳、男性)の母親が相談に訪れた。一人息子のKさんが大学に入学したものの、「大学に行く気になれない」と言って自室にひきこもるようになったという。母親が大学に行くように言っても、Kさんは、「構わないでほしい」と言うばかりで、何度も言うとイライラして声を荒げるため、らちが明かない。父親は、「お前が甘やかして育てたから、弱い性格になってしまった。放っておけばよい」と言うので、夫婦で言い合いが繰り返された。母親は相談できる相手もいなく途方に暮れていたところ、たまたまP市の広報で精神保健相談について知ったという。母親によると、Kさんは元々人との交流が苦手で友達は少なく、家で読書をして過ごすことが多かった。中学生の頃には同級生にいじめられたと言って登校できない時期があった。今回は大学を休み始めた直後、「初日のガイダンスの時、どの教職員も自分の方だけを見て話をした。教職員と学生が話し合っている内容や素振りから、みんなが共謀して自分のことを監視していることが分かる」と話した。こうしたことから、母親はKさんがこのまま大学に行けなくなるのではないかと、とても心配し、最近は夜もよく眠れないほどであるという。(問題 49)

J精神保健福祉相談員は母親からさらに詳しく事情を聞いた上で、今後の対応について提案を行った。(問題 50)

その翌日の午後、母親からJ精神保健福祉相談員に電話があった。「私が昨日保健福祉センターに相談に行ったことを息子が知り、『自分のことを相談するなんて聞いていなかった。どんな相談をしたのか』と強く聞いてくるのです。私はうまく答えられなくて困ってしまったので電話しました。今、息子が私のそばにいますので直接話してほしい」と依頼された。(問題 51)

問題 49 この時点で、J精神保健福祉相談員が最も留意すべきこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Kさんが対人関係のストレスから不登校を繰り返す人であること。
- 2 Kさんが精神疾患に罹患している可能性があること。
- 3 母親の過保護がもたらした親子関係の問題があること。
- 4 Kさんが大学に通学しないことで顕在化した夫婦の問題があること。
- 5 Kさんが大学に通学しないことに対し、母親が過剰に反応していること。

問題 50 次の記述のうち、J精神保健福祉相談員が行った提案として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「ご両親そろって一緒に相談したいと、お父様にお伝えください」
- 2 「保健所から移送制度の説明を受けてください」
- 3 「民間の相談機関が主催する、親子のコミュニケーションの在り方を勉強する研修に参加してください」
- 4 「大学の担当者に、必要な環境調整を依頼してください」
- 5 「精神保健福祉センターに、ひきこもりの人の家族会を紹介してもらってください」

問題 51 この場面でのJ精神保健福祉相談員の最初の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Kさんと電話口で直接話すことは控え、母親に、「相談内容はお母さんから隠さずに伝えることが大切です」とアドバイスする。
- 2 Kさんに電話を代わってもらい、「お答えするには、個人情報保護の観点から、手続きをとる必要があります」と話し、手続きの方法を伝える。
- 3 Kさんに電話を代わってもらい、「あなたの承諾なく、あなたのことに関してお母さんから相談を受けましたが、不適切でした」とわびる。
- 4 Kさんに電話を代わってもらい、母親と話した内容には触れず、「あなたのことが心配なので一度お会いしたい」と面会を希望する。
- 5 Kさんに電話を代わってもらい、「あなたのことも含め、お母さんのいろいろな心配事について相談に乗りました」と回答する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 52 から問題 54 までについて答えなさい。

[事 例]

Lさん(62歳, 男性)は幼い頃に両親を亡くし, 20歳代前半で統合失調症を発症した。精神科病院の入院を何度か経てQ市のY救護施設に入所してから, 既に20年が経過している。Lさんは目立った症状もなく, 施設の日課に沿って生活し, 料理プログラムでは手際の良さを見せた。一方, プログラムとして食材の購入に出かけた際に, 購入リストにある食材が見つからなくても店員に尋ねることができないことが目立った。また, プログラム以外では自室で好きな音楽を聴いて過ごすことが多く, 他の利用者との交流はほとんどなかった。Y救護施設のM生活指導員(精神保健福祉士)は, Lさんには地域で暮らす力があると思い, 面接を重ねた。そして, Lさんが面接に慣れてきた時点で, 今後の希望や地域で暮らすことについて投げかけてみた。しかし, Lさんは, 「施設を出て生活するなんて考えたこともない」「外の人みんな冷たい」「特にしたいこともない」と言うばかりだった。(問題 52)

ある日, M生活指導員は, 長期入院を経てアパートで暮らすピアサポーターを施設に招き入所者との懇談会を開催した。懇談会に参加したLさんは, ピアサポーターの話を真剣な面持ちで聞き入っていた。(問題 53)

その後, Lさんは漠然と地域で暮らしたいと思うようになり, 面接でその思いを表現するようになった。そこで, M生活指導員はLさんの思いを実現するために, Y救護施設が確保したアパートの空き室での宿泊体験を提案した。宿泊体験の結果, Lさんは買物やゴミ出しがうまくできないこと, お金を計画的に使うのが難しいこと, 日常の小さな困りごとを相談できる人がそばにいないと不安を感じるということが分かった。

M生活指導員は, Lさんが施設を退所し, 地域での生活に必要な支援体制を整えるべく, 関係者に呼びかけてケア会議を開催した。(問題 54)

問題 52 この時点のM生活指導員のLさんに対する働きかけとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「一人で自炊ができるよう、プログラムの回数を増やしてみませんか」
- 2 「周りの人の目は気にしないで、もっと一人で外に出かけると良いですよ」
- 3 「Lさんの好きな歌手のコンサートがあるので、一緒に行きませんか」
- 4 「人とうまく会話できるよう、SSTで練習しましょう」
- 5 「グループホームの利用に向けて、具体的な計画を立ててみませんか」

問題 53 この場面でM生活指導員がピアサポーターに期待した役割として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 利用できる障害福祉サービスの内容を説明してもらう。
- 2 一人暮らしをするための技能を教示してもらう。
- 3 地域で暮らすことの大変さを具体的に話してもらう。
- 4 退所後のアパート暮らしが想像できるように語ってもらう。
- 5 施設で依存的な生活を続けないよう諭してもらう。

問題 54 次の記述のうち、M生活指導員がケア会議で出席者に提案した現時点での支援計画として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 居宅介護事業者が、家事に関わる援助を行う。
- 2 基幹相談支援センターが、成年後見制度利用支援事業を開始する。
- 3 相談支援事業者が、身近な日常生活の相談を担う。
- 4 就労移行支援事業者が、就労に向けた訓練を行う。
- 5 生活保護の担当者が、住宅入居等支援事業を開始する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題3)

次の事例を読んで、問題55から問題57までについて答えなさい。

〔事例〕

A精神保健福祉士がキャンパスソーシャルワーカーとして勤務するZ大学の地域で、震度6強の地震が発生した。Z大学の構内には大きな被害がなく、地震発生当日から出勤可能な教職員による建造物の確認や、学生への連絡が始まった。A精神保健福祉士も出勤可能であったため、日頃から相談を受けていた学生たちに連絡を取った。

(問題55)

地震発生後1週間で大学は再開し、A精神保健福祉士の所属する学生支援センターでは、学生の長期的支援の必要性からメンタルサポートチームを立ち上げた。チームはA精神保健福祉士に加え、大学に籍を置く医師(精神科医)、保健師、臨床心理士がメンバーとなり、活動を開始した。(問題56)

その後、A精神保健福祉士は、地震前から欠席が多く、これまで支援してきたBさん(19歳、男性)に連絡を取った。今回の地震によりBさんと両親の住む自宅は半壊し、避難所に家族と一緒に身を寄せていた。面談はBさんと母親の希望もあり、避難所の空きスペースを使い、両親同席のもと行われた。Bさんはやや疲れた様子であったが、現状を丁寧に話した。面談の中で、父親が被災前からうつ病を患っていたことが分かった。父親は職場の上司によるパワーハラスメントから病気を発症し、入院、休職した。退院後は通院し、服薬を継続していた。ところが今回の地震により、通院先だけでなく近隣の病院も被災し、医療が受けられず、薬が手に入らない状況である。Bさんと母親は、最近眠れずに表情も乏しい父親を心配していた。父親は、「もうだめだ」「何も考えられない」とA精神保健福祉士に言った。(問題57)

問題 55 この時点のA精神保健福祉士による対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 近隣のボランティアセンターで、ボランティア登録を行うよう促す。
- 2 防災計画を立案するため、被災時の状況について質問する。
- 3 不安や悲嘆感情を引き出しつつ、吐露できるようにする。
- 4 安全な生活環境を確保できているかを確認する。
- 5 地震により諸症状が悪化するため、カウンセリングを勧める。

問題 56 この時点のA精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 災害時であっても、学生の了解を得て情報を提供する。
- 2 主治医がいる学生への支援は、サポートチームの対象外とする。
- 3 被災した学生や教職員への医療行為も担う。
- 4 記録用紙は、精神保健福祉士が専用に使用していた様式を用いる。
- 5 アウトリーチ支援よりも、通学を再開した学生に対する支援を優先する。

問題 57 この時点のA精神保健福祉士による対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 父親に大学へ相談に来るよう伝える。
- 2 避難所を担当している災害派遣精神医療チーム(DPAT)につなげる。
- 3 父親に労災認定請求の方法を教える。
- 4 家族全員で自宅に戻るよう促す。
- 5 避難所でBさんと母親に家族心理教育を行う。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。

[事 例]

Cさん(35歳, 女性)は18歳で統合失調症を発症, 入院を経験しながらも農業大学校卒業後, 父が代表の農業法人で果実加工部門を担当している。4年前に農業高校教員と結婚, 両親と同居し, 1歳6か月の娘がいる。妊娠中から再発や育児と仕事の両立の不安を語っていたが, 家族や通院先のD精神保健福祉士の支援のほか, 母親教室で再会した高校時代の友人Eさんとの交流にも支えられてきた。

昨年4月父が急死し, その後外来受診が増えた。「育児にも仕事にもほとんど手がつかない」「あまり眠れないし, もう何もかも放り出したい」などと訴えるので, D精神保健福祉士は面接と訪問の回数を増やした。(問題 58)

昨年6月, 「もう疲れた, 休みたい」と任意入院したが, 入院中に何度も面会に来てくれたEさんの支えもあり, 9月には退院した。

農業法人は, 今年4月から夫が代表を務めてくれることになり, Cさんは自分の将来について考えられるようになった。そんな時, 病院を退職しソーシャルワーカー事務所を開業していたD精神保健福祉士からCさんとEさんにお茶会の誘いがあった。「子育ての悩みを話そう」というものだったので, 二人は喜んで参加した。その場では, D精神保健福祉士も自身の子育てや仕事に関する悩みを打ち明けたので, CさんもEさんも日頃の思いを存分に話すことができた。D精神保健福祉士は, 「自分たちと同じように, 悩みがあっても相談できない親たちは多いだろう。父親も含めて, 親たちが地域で気軽に交流できる緩やかなつながりを作りましょう」と二人に働きかけた。

(問題 59)

しかし, D精神保健福祉士は準備を続けるうちに, 自分の立場が, 専門職としての活動なのか当事者としての思いなのか戸惑い, 相談したいと考えた。(問題 60)

問題 58 次のうち、D精神保健福祉士が用いたアプローチとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 問題解決アプローチ
- 2 行動変容アプローチ
- 3 心理社会的アプローチ
- 4 課題中心アプローチ
- 5 危機介入アプローチ

問題 59 次のうち、D精神保健福祉士が用いた方法として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 コミュニティ・ディベロップメント
- 2 コミュニティ・ビジネス
- 3 ソーシャル・ウェルフェア・プランニング
- 4 ソーシャルアクション
- 5 ソーシャルサポートネットワーク

問題 60 この時点のD精神保健福祉士が相談をする相手として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 農業法人の経営コンサルタント
- 2 以前に勤めていた病院の事務長
- 3 成年後見業務で連携している弁護士
- 4 職業選択に影響があった高校の恩師
- 5 元上司の精神保健福祉士